

男女共同参画に関する 県民意識と生活基礎調査

結 果 概 要

- 1 男女平等について
- 2 子育てや子どもの教育について
- 3 結婚について
- 4 家庭生活について
- 5 職業生活について
- 6 社会活動等について
- 7 女性の人権、ドメスティック・バイオレンスなどについて
- 8 男女共同参画社会について

【調査の概要】

● 調査の目的

本調査は、男女共同参画社会の実現を目指して、三重県における男女共同参画に関する県民意識と生活について把握し、今後の施策を推進するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

● 対象者／県内に居住する20歳以上の男女5,000人

● 調査期間／平成18年2月

● 調査方法

郵送配布・郵送回収による郵送調査法
標本の抽出については、市町ごとに抽出数を定め、選挙人名簿等からの無作為抽出

● 回収結果／2,615人(52.3%)

※回答率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しており、合計が100%にならないことがあります。また、小計についても同様に異なる場合があります。

平成18年12月

三 重 県

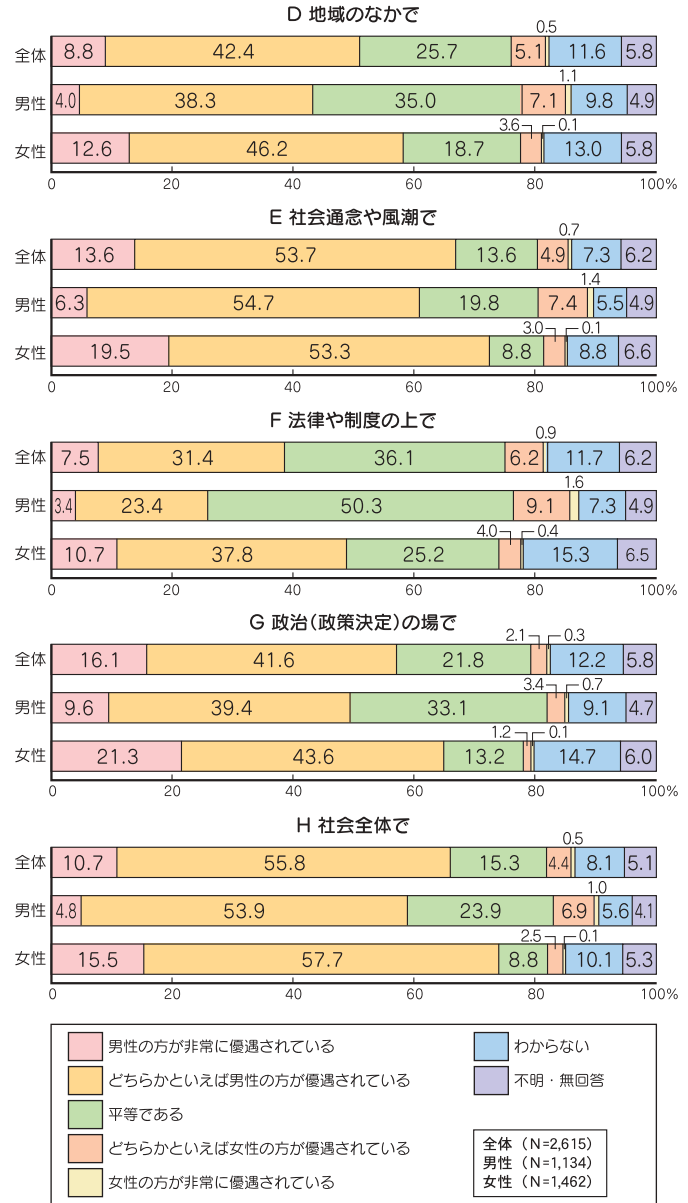
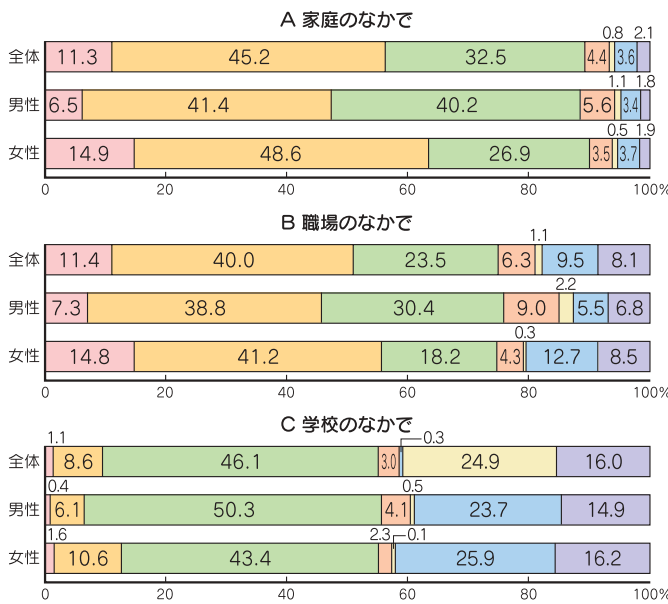
1 男女平等について

男女の地位について

男女の地位について、「C 学校のなかで」以外の分野では、『男性の方が優遇されている』と答えた人の割合が高い結果となっています。

特に「E 社会通念や風潮で」、「H 社会全体で」については、6割以上の人々が『男性の方が優遇されている』としているとともに、「A 家庭のなかで」、「B 職場のなかで」、「D 地域のなかで」、「G 政治（政策決定）の場で」についても、5割以上の人々が『男性の方が優遇されている』としています。『女性の方が優遇されている』と答えた人の割合は、すべての分野で低い結果となっており、男女の不平等感が強いことが分かります。

※文章中の「男性（女性）の方が優遇されている」は、選択肢の「男性（女性）の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性（女性）の方が優遇されている」を合わせたもの。

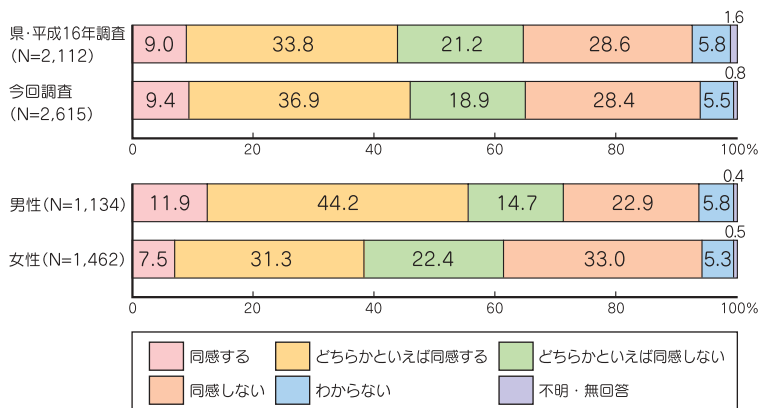


「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、今回調査では『同感しない』が約47%となっており、平成16年調査（約50%）より下回っています。

また、男女別で見ると、男性は『同感する』が約56%を占めているのに対し、女性では『同感しない』が約55%を占めており、男性の方が性別による固定的な役割分担意識が強いことが分かります。

※文章中の『同感する』は、選択肢の「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせたもの。『同感しない』は、選択肢の「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合わせたもの。



2

子育てや子どもの教育について

子育てに関する考え方について

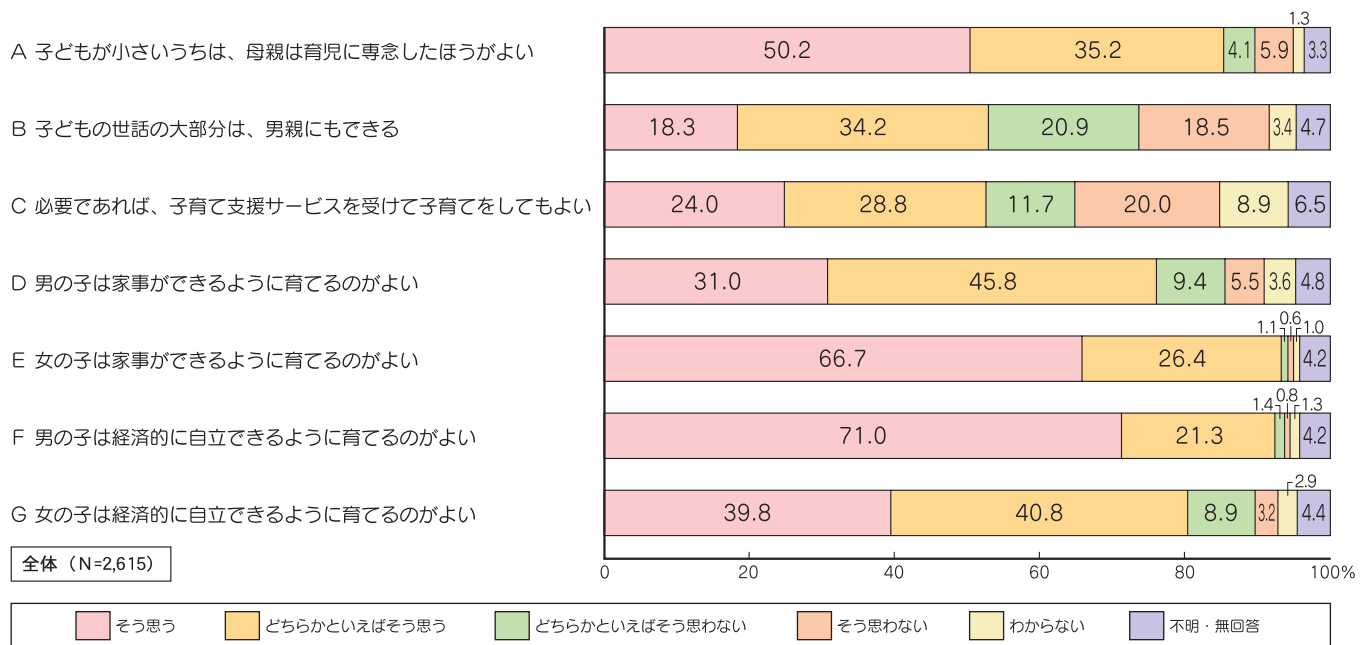
子育てについて、「E女の子は家事ができるように育てるのがよい」、「F男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」については、9割以上の人々が『そう思う』としているとともに、他の設問と比べ「そう思う」と答えた人の割合が高くなっています。

「B子どもの世話の大部分は、男親にもできる」、「C必要であれば、子育て支援サービスを受けて子育てをしてもよい」に

ついては、『そう思う』と答えた人の割合が5割を超えていますが、『そう思わない』と答えた人の割合は、他の項目に比べ高い結果となっています。

これらのことから「家事や育児は女性の仕事」という意識がまだ強く残っていることがうかがえます。

※文章中の「そう思う」は、選択肢の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。「そう思わない」は、選択肢の「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせたもの。

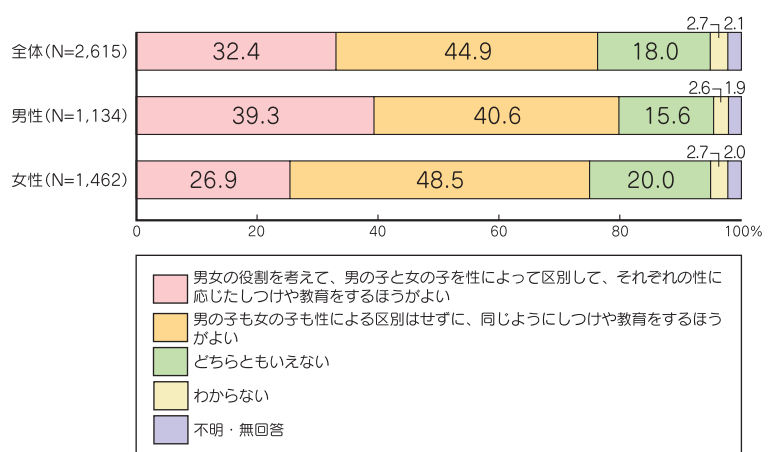


男の子と女の子のしつけや教育について

男の子と女の子のしつけや教育について、全体では、「男の子も女の子も性による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合は約45%と最も高くなっています。

男女別でみると、「男の子も女の子も性による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合は、女性(約49%)が男性(約41%)を上回っています。また、「男女の役割を考えて、男の子と女の子を性によって区別して、それぞれの性に応じたしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合は、男性(約39%)が女性(約27%)を上回っています。

このことから、女性は男性よりも、性別による区別を望まない傾向があることがうかがえます。

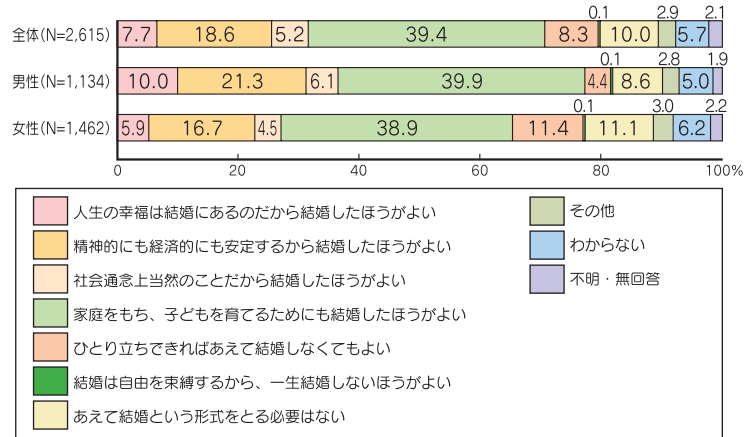


3 結婚について

結婚に対しての考え方について

結婚について、全体・男女別ともに、「家庭をもち、子どもを育てるためにも結婚したほうがよい」と答えた人の割合が最も高くなっています。

男性では、「人生の幸福は結婚にあるのだから結婚したほうがよい」、「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい」など、結婚への肯定的な意見を答えた人の割合が合わせて約31%と、女性の約23%を上回っています。また、「ひとり立ちできればあえて結婚しなくてもよい」と答えた人の割合は、男性約4%、女性約11%と女性が男性を上回っています。

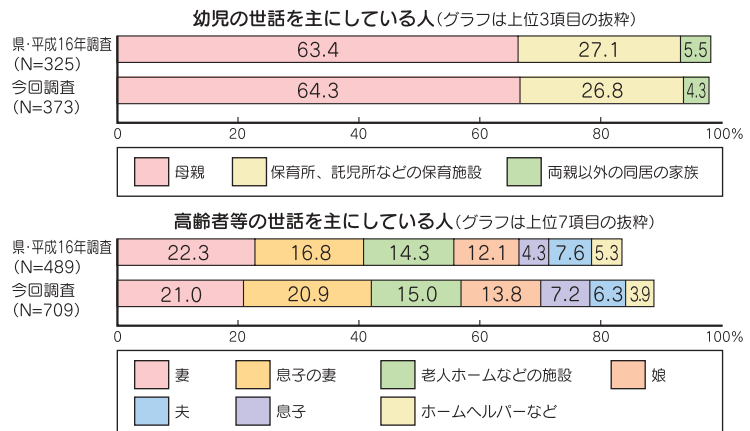


4 家庭生活について

平日の日中に幼児や高齢者等の世話をしている主な人について

平日の日中、幼児の世話は主に誰がしているかについて、今回調査、平成16年調査ともに「母親」と答えた人の割合が6割以上を占めており、「育児は母親が中心」という傾向は前回調査と比べても変化はみられません。

高齢者等の世話を主に誰がしているかについて、今回調査、平成16年調査ともに「妻」、「息子の妻」の割合が高いですが、「息子」と答えた人の割合は前回調査の約4%から、今回調査は約7%と少し高くなっています。



夫婦間での家事等の分担について

夫婦間での家事等の分担について、「食事の支度」、「食事の後片付け」、「日常の家計管理」、「洗濯」については、ほとんど妻がしていると答えた人の割合が7割以上の高い結果になっています。

また「高額な商品の購入決定」、「親戚とのつきあい」、「近所とのつきあい」については、夫婦平等に分担していると答えた人の割合が高くなっています。

